

九州ルーテル学院大学

Teaching Portfolio

2020



所 属：心理臨床学科

名 前：岩永 靖

作成日：2020年10月26日

九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：岩永 靖

所属：人文学部 心理臨床学科

1. はじめに

本学では、従来より学生による授業評価アンケートを実施し、今後の授業改善に取り組んできた。今回さらに教員自らがシラバスや学生からの授業評価に加えて教育に対する取り組みや成果など教育活動全般について網羅的にまとめるために、ティーチング・ポートフォリオを作成することとした。

ここでは、私の2018年度から2020年度までの教育活動全般についてティーチング・ポートフォリオとしてまとめ、今後の教育活動に活かしていくこととする。

2. 教育の責任

本学における私の教育責任は、主に心理臨床学科精神保健福祉コースにおける専門科目の担当である。2008年度入職時より精神保健福祉コース長として精神保健福祉コースの教育、また2016年度よりスクール(学校)ソーシャルワーク教育課程を立ち上げ、現在精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカーの養成教育とその統括を行っている。

2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

| 科目名 | 開講年度時期 | 履修者数 | 備考 |
|--------------|---------------|---------|------------|
| 心理臨床学の基礎 | 2018-2020 後期 | 平均 73 名 | 心理臨床学科専門必修 |
| 特別研究 | 2018-2020 後期 | 平均 11 名 | 心理臨床学科専門必修 |
| 卒業研究 | 2018-2020 前後期 | 平均 9 名 | 心理臨床学科専門必修 |
| 学校ソーシャルワーク論 | 2018-2020 後期 | 平均 29 名 | 心理臨床学科専門選択 |
| 学校ソーシャルワーク演習 | 2018-2020 前期 | 平均 7 名 | 心理臨床学科専門選択 |

| | | | |
|----------------------|---------------|---------|----------------|
| 学校ソーシャルワーク実習指導 | 2018-2020 前後期 | 平均 6 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 学校ソーシャルワーク実習 | 2018-2020 前後期 | 平均 6 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉論 I | 2018-2020 後期 | 平均 52 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉論 II | 2018 前期 | 42 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉現場 体験 | 2018-2020 前期 | 平均 19 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉援助 実習指導 I | 2018-2020 後期 | 平均 16 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉援助 実習指導 II | 2018-2020 前期 | 平均 16 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉援助 実習指導 III | 2018-2020 後期 | 平均 16 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉援助 実習 | 2018-2020 前後期 | 平均 16 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| 精神保健福祉論 IV | 2019-2020 前期 | 平均 22 名 | 心理臨床学科専門 選択 |
| フレッシュマンゼ ミ | 2020 前期 | 11 名 | 共通教育必修 |

担当する科目は主に精神保健福祉コースにおける精神保健福祉関連の専門科目及び学校ソーシャルワーク関連科目を担当している。「精神保健福祉論 I」及び「精神保健福祉援助実習指導 I、II、III」、「精神保健福祉援助実習」は長く担当しており、「学校ソーシャルワーク実習指導」「学校ソーシャルワーク実習」も教育課程認可後から担当している。

■ 主要担当科目

「精神保健福祉論 I」

本学入職時より長く担当しており、障害者福祉の基礎になる科目であり、精神保健福祉コースの学生のみならず特別支援教育コース、心理学コースの学生も学んでいる。障害者福祉の歴史から学ぶことに重点を置きながら現在の障害者福祉の施策、法制度とその課題を学ぶことを重視している。

「学校ソーシャルワーク論」

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程における専門科目である。現代における学校現場や子育て環境の課題、不登校、いじめ、暴力行為や児童虐待などの課題を抱える児童生徒に対する支援とケース会議の進め方等を学ぶ科目である。スクールソーシャルワーカーを目指す学生のみならず教職希望学生も受講しており、校内における多職種連携、チーム学校について理解を深める機会としている。

「学校ソーシャルワーク実習指導」

学校ソーシャルワーク実習を行う上での準備を行う科目である。実習先である教育委員会の市町村の人口、産業や社会資源等を調べることにより地域アセスメント力を高め、実習先の児童生徒へどのような影響を与えているのかを考える機会としている。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

■ 非常勤講師

なし

■ 出張講義

2018年11月29日、慶誠高等学校2学年、1学年を対象に「学校ソーシャルワークとは？」の講義 子どもの貧困や児童虐待の問題と学校ソーシャルワーク実践について講義を行った。

2.2. 教育組織運営

2008年度入職時より精神保健福祉コース長をとして精神保健福祉コースの教育課程編成および実施を統括している。また2016年度よりスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定を受け、「学校ソーシャルワーク演習」、「学校ソーシャルワーク実習指導」、「学校ソーシャルワーク実習」を新規開講した。

3. 教育の理念

開学以来本学では少人数教育と様々な体験学修を通して身に付けた幅広い視野や知識を卒業後に社会の様々な場面で生かせるような教育を目指してきた。私の担当する精神保健福祉コースは、様々な生きづらさを抱えた人への支援について学んでいく。「感恩奉仕」の精神に基づき、ソーシャルワークの基盤である価値・知識・技術について実践できる人材を教育していくことが私の教育理念である。

3.1. 理念1 科目内容を実践に結びつける力を身につける。

私の担当する科目は精神障害者や児童生徒の様々な課題やその改善に向けた支援について学ぶ科目である。それゆえに単なる知識の修得だけでなく、それを実践に結びつけ、

卒業後に現場で活かしていくことが重要である。そのために多くの事例を活用したり、私自身の現場での経験を授業の中に盛り込み、より具体的に現場のイメージがつくようにすることと実際の様々な知識や技術が現場実践においてどのように活用されているのかを深める教育をしたいと思っている。

3.2. 理念2 障害者や児童生徒を取り巻く社会問題について考える力を身につける。

私の専門領域であるソーシャルワークは、ミクロ、メゾ、マクロ領域で実践を展開するのが特徴である。障害者や児童生徒の抱える課題は様々なマクロレベルの社会のありようが大きく影響している。シラバスに基づいて授業を展開するとともにその時々社会ありようを考える題材を提供し、マクロレベルからの精神保健福祉、学校ソーシャルワークを考える教育を行っていきたいと思っている。

3.3. 理念3 他者と協働し学び合う力を身につける。

私の担当している実習関連科目においては、学生がそれぞれの現場で様々な体験をし、多くの気づきと学びを深めてくる。その体験をお互いに共有すること、そしてそこから互いに学び合うことを通して、他者と協働し学び合う力を身につける教育を行いたいと思っている。

4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

4.1. 現場での体験並びに資料の活用

授業内容に合わせて私自身が現場で行ってきたことやその状況、また現場で活用されている資料を提示することにより授業内容の理解と現場のイメージがつくような工夫を行っている。

4.2. 社会問題に対するソーシャルアクション等の紹介

精神保健福祉並びに学校ソーシャルワークに関連する課題に対して、日本精神保健福祉士協会を始め様々な団体が声明や提言を行っている。そのようなソーシャルアクションの取り組みを紹介することにより、社会における様々な課題に対して精神保健福祉士としてできることを考える機会としている。

4.3 実習における事後学修における学び合いの機会の提供

実習後の事後学修において、自らの実習体験を言葉にして語ること、またそれに耳を傾けそこから学ぶことを意識した機会を設けている。より多くの時間をとり共感できる体験や他者から学ぶ体験をすることにより卒業後の現場で生かせるよう工夫している。

5. 教育改善のための努力

5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

各学期に実施される授業評価アンケートの数値及び自由記述のコメントのうち改善すべき点については、改善するよう取り組んでいる。例えば、もう少しゆっくり話してほしい等、学生の声を真摯に受け止め心がけて取り組んできた。また数値の低かった項目についても授業改善計画報告書に記載し、翌年度に改善できるよう取り組んでいる。

5.2. 改善努力2 職能団体や学会及び社会貢献活動の中から情報収集

私自身が所属している職能団体や学会での活動並びに社会貢献活動の中での経験から授業の活かせるような内容や新しい情報等を収集し、授業の中で活かしてきた。

6. 教育の成果・評価

「精神保健福祉論Ⅳ」においては、2019年度から担当した科目であったが、DVDなど映像を活用することにより、精神疾患とその症状が当事者の生活に与える影響について理解を深めることができたようで、授業評価8項目中7項目で平均を上回っている。

「精神保健福祉論Ⅰ」においては、履修者も多く一方的な講義になりがちで学生の質問などをリアクションペーパーから取り上げることが多かったが、時間がかかり授業が遅れがちになったことなどが課題であった。学生の丁寧にフィードバックすることと学修内容の進捗について工夫が必要である。

7. 今後の教育に関する課題と目標

私の担当科目は主に実習等を含めた精神保健福祉士関連科目を学校ソーシャルワーク関連科目である。現場での精神保健福祉士やスクールソーシャルワーカーに対する社会的ニーズは高く、今後も多くの人材が求められている領域である。また私が研究フィールドとしてかかわってきた分野でもある、今後も現場とつながりを持ちながら、そのことを学生の教育に活かし、社会が求めるより良い人材の育成に注力していきたい。

- 「学校ソーシャルワーク実習」については、2016年度より開講しているが履修学生が増加傾向にあることから実習先の開拓及びよりよい実習のあり方について、実習先との連携を密に行っていく必要がある。
- 「精神保健福祉論Ⅰ」、「精神保健福祉論Ⅳ」、「学校ソーシャルワーク論」については、講義形式の授業の中でワークを設けたり、映像の活用、社会の動きなど新たな情報を提供することにより、常に新しい知識と技術を身につけることができるよう取り組んでいきたい。

8. 参考資料

- (1) 担当科目シラバス
- (2) 授業評価アンケート結果